



2008年3月期 第3四半期 業績概要

2008年1月31日

アンリツ株式会社
社長 戸田 博道

東証第1部:6754
(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたもの限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向
や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが
引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 第3四半期業績の概要
- 通期の見通し
- 経営革新施策の概要

当社の事業セグメントの呼称と事業内容

1

| セグメント | サブセグメント | 事業内容 | 担当事業部の 主な所在国 |
|-------|------------|--|---------------------------|
| 計測器 | NGNおよびインフラ | 光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線ネットワークおよび無線インフラ敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど | 日本・米国・ デンマーク・フランス・イタリア |
| | 携帯端末 | 携帯電話端末開発・製造・保守用テスト | 日本・英国 |
| | 汎用 | 無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど | 米国・日本・ 英国 |
| 情報通信 | | 映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど | 日本 |
| 産業機械 | | 食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など | 日本 |
| その他 | | 精密計測、光デバイスなど | 日本 |

サマリー(1)



1. 第3四半期業績(連結)(4~12月)

(単位:億円 四捨五入)

| | 前第3四半期 (4-12月)実績 | 当第3四半期 (4-12月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前年同期比 増減率(%) |
|-------------|---------------------|---------------------|--------------|-----------------|
| 受注高 | 729 | 763 | 34 | 5% |
| 売上高 | 703 | 717 | 14 | 2% |
| 営業利益 | 31 | 27 | △4 | △13% |
| 経常利益 | 14 | 8 | △6 | - |
| 税引前当期純利益 | 15 | 8 | △7 | - |
| 当期純利益 | △0 | 0 | 1 | - |
| フリーキャッシュフロー | 15 | 23 | 8 | 57% |

連結営業利益の減少は、計測器の収益の伸び悩みによる
(サービス・アシュアランスの収益性改善は計画通り進捗)

サマリー(2)



2. 営業概況(4~12月)

■事業セグメント別

| | |
|------|--|
| 計測器 | 全体としては前年並み(若干の増収減益) サービス・アシュアランスが急伸するも、新製品市場浸透に進捗遅れ |
| 情報通信 | 前年並み、計画通り |
| 産業機械 | 増収増益、食品の品質検査用が好調 |

■地域別

| | |
|------|--|
| 日本 | 3G携帯電話製造用計測器の需要により前年並み売上 第3四半期より受注が減速傾向 |
| 米州 | 前年のような大型案件はないものの前年並み |
| EMEA | サービス・アシュアランス好調、3G開発減速 |
| アジア他 | 中国内需の抑制が影響 |

3. 経営革新施策による利益ある成長戦略の再構築

■ 通期見通し(08年3月期)

| | | | | |
|------|---|---|--------|---------|
| 営業利益 | 第4四半期の市場環境に不透明感 計測器の収益性悪化により 営業利益減少の見込み | 中間期決算時見通し | 今回の見通し | |
| | 経常利益・ 当期純利益 | 収益性改善と競争力強化に向けた経営革新のための 費用として35億円を予定 | 売上高 | 1,035億円 |
| | | 営業利益 | 70億円 | 55億円 |
| | | 経常利益 | 35億円 | 0億円 |
| | | 当期純利益 | 25億円 | △20億円 |

■ 経営革新施策

- ・シンプルなグローバル事業プロセスの構築と、CRM、SCMの強化
- ・低収益な製品群の整理、非効率部門の改革
- ・開発リソースの最適配分とマーケティング強化による、投資リターンの最大化

(注) CRM – Customer Relationship Management, SCM – Supply Chain Management

(空白)

事業別売上高・営業利益(連結)

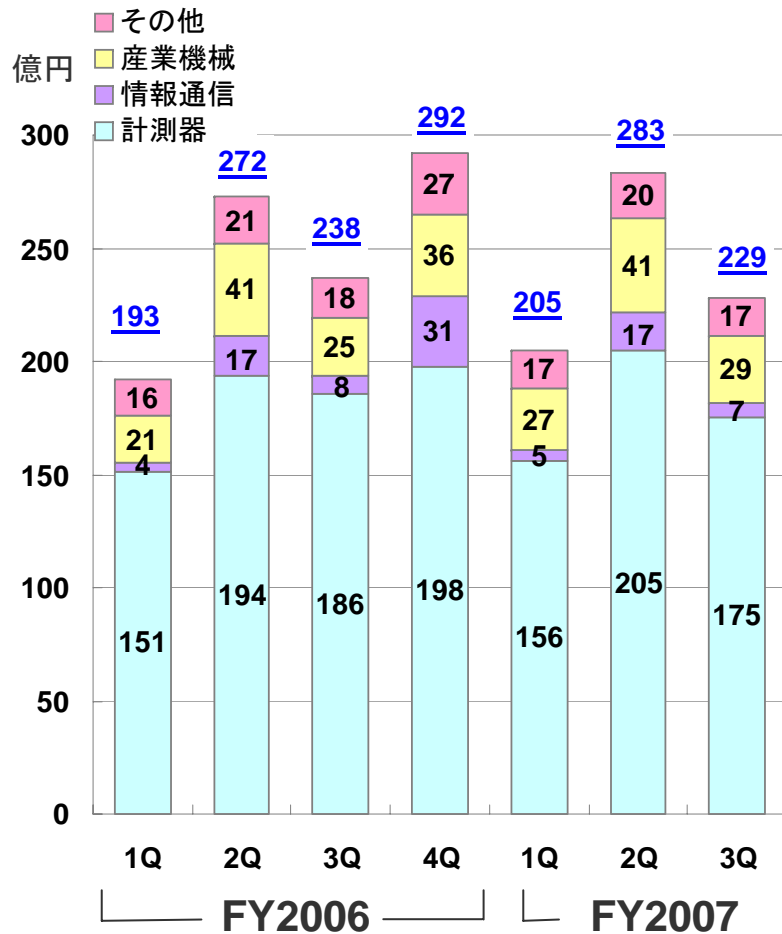


(単位:億円 四捨五入)

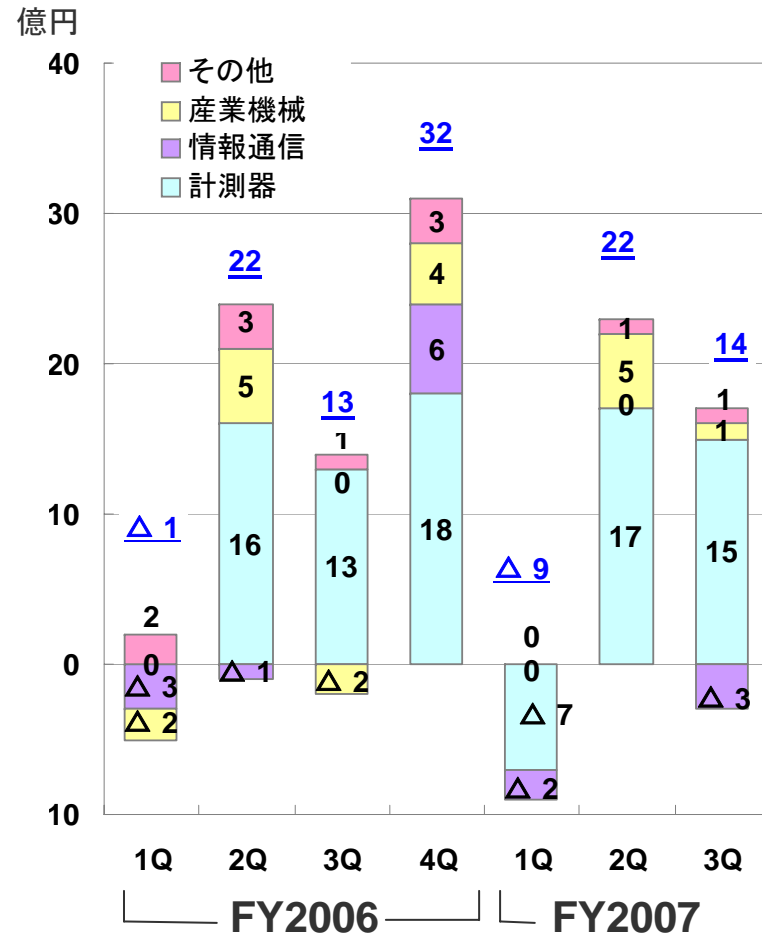
| | | 前第3四半期 (4-12月)実績 | 当第3四半期 (4-12月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前期比 増減率(%) |
|------|------|---------------------|---------------------|--------------|---------------|
| 計測器 | 売上高 | 530 | 537 | 6 | 1% |
| | 営業利益 | 29 | 26 | △ 3 | △12% |
| 情報通信 | 売上高 | 29 | 28 | △ 1 | △3% |
| | 営業利益 | △ 5 | △ 5 | △ 1 | - |
| 産業機械 | 売上高 | 87 | 97 | 10 | 12% |
| | 営業利益 | 2 | 5 | 4 | 238% |
| その他 | 売上高 | 56 | 55 | △ 1 | △2% |
| | 営業利益 | 6 | 2 | △ 4 | △72% |

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業損益推移(連結)



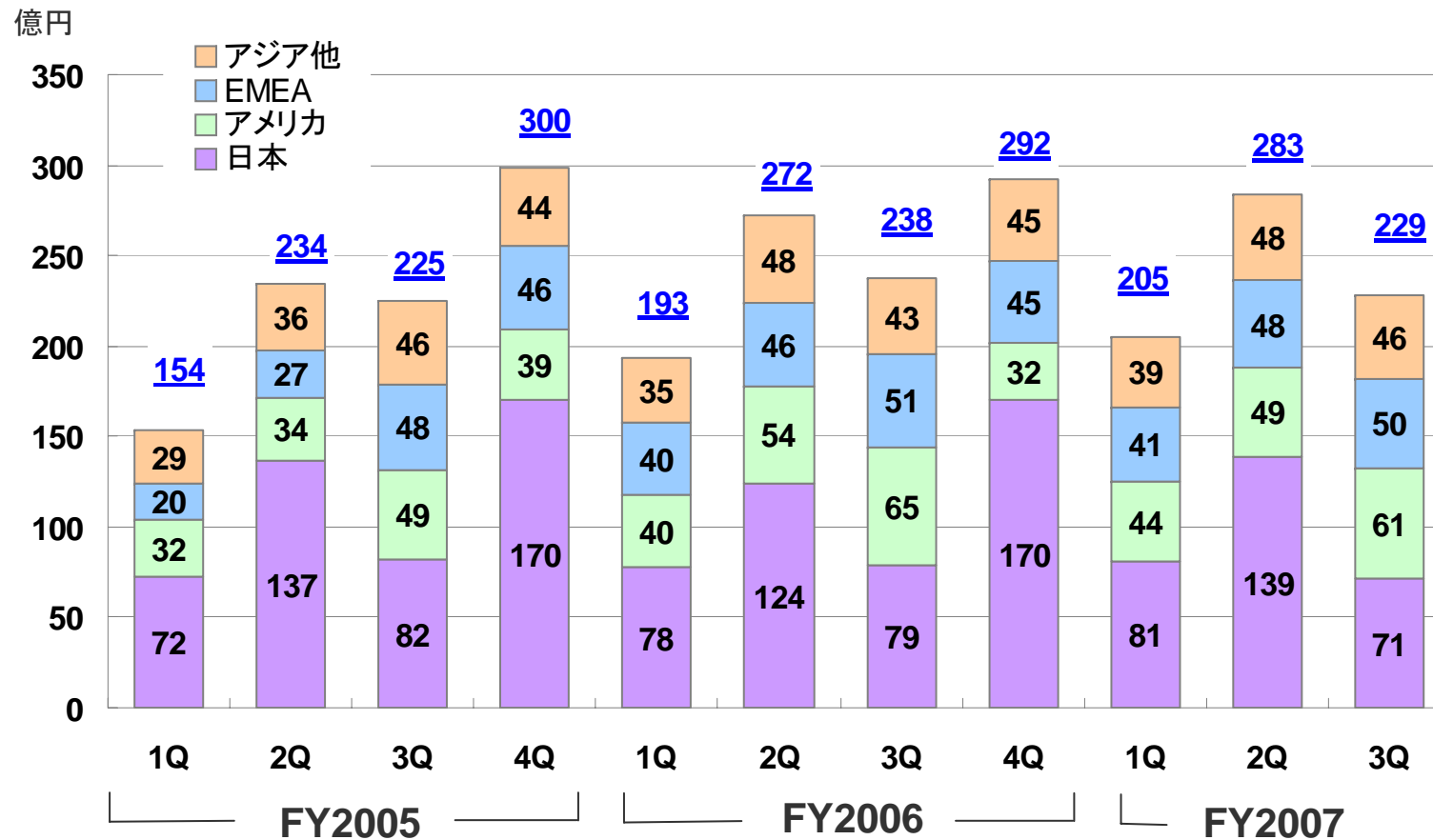
連結売上高



連結営業利益

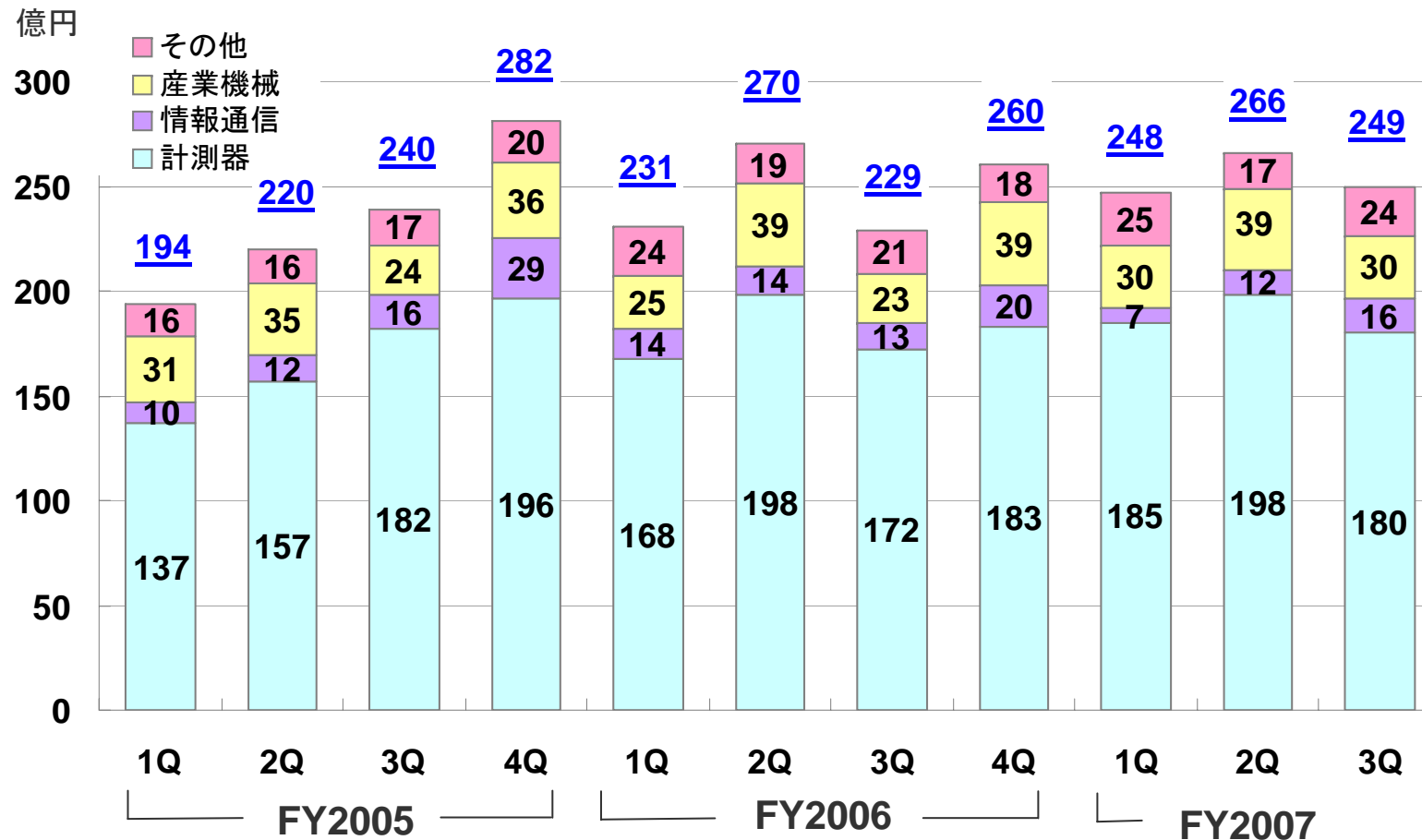
(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

地域別売上高推移(連結)



(注1) 2006年度から「ヨーロッパ」を「EMEA」(欧州・中近東・アフリカ)に変更。過去のデータはすべて現在の定義に修正済み。
 (注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別受注推移(連結)



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

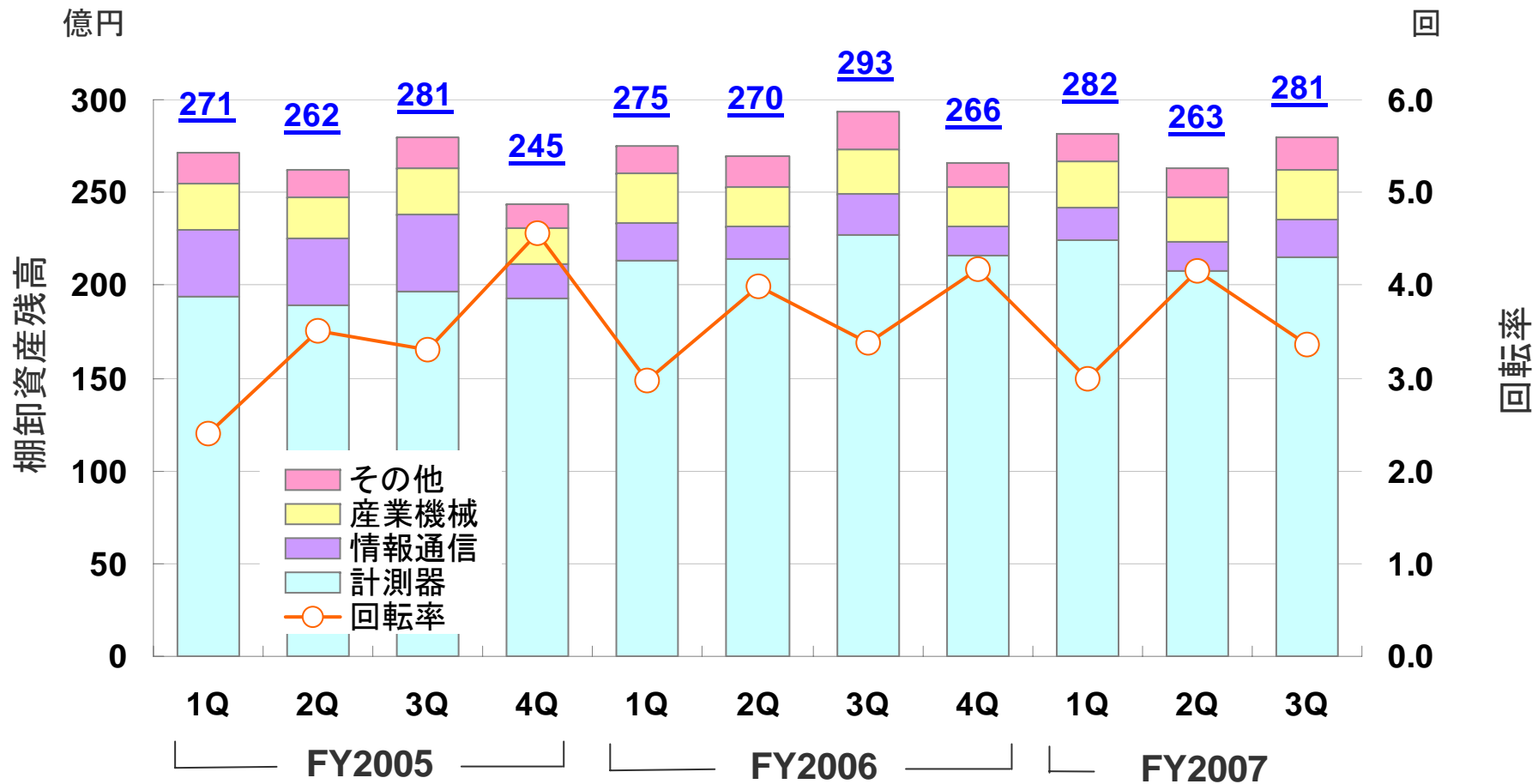
営業外・特別損益概要(連結)



単位:百万円 四捨五入

| | | 前第3四半期 (4-12月)実績 | 当第3四半期 (4-12月)実績 |
|---------------|----------|---------------------|---------------------|
| 営業利益 | | 3,143 | 2,724 |
| | 金融収支 | △ 701 | △ 491 |
| | 棚卸資産評価損等 | △ 595 | △ 1,190 |
| | 為替差損益 | △ 402 | △ 71 |
| | その他 | △ 45 | △ 147 |
| 営業外損益計 | | △ 1,743 | △ 1,899 |
| 経常利益 | | 1,400 | 824 |
| | 固定資産売却損益 | △ 47 | - |
| | その他 | 124 | △ 29 |
| 特別損益計 | | 77 | △ 29 |
| 税引前利益 | | 1,477 | 795 |

棚卸資産残高推移(連結)



(注1) 回転率 = 四半期売上高 × 4 / 四半期単位平均棚卸資産 (注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

キャッシュフロー概要(連結)



当第3四半期(4~12月)

- ①営業CF: 43億円
- ②投資CF: △20億円
- ③財務CF: 23億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 23億円

現金及び現金同等物の 期末残高

243億円

内訳 単位:億円 △:減少

| | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| 仕入債務 3 | | |
| 減価償却 33 | | 社債 100 |
| 売上債権 20 | | |
| 税引前利益 8 | 税金 △3 | |
| 棚卸資産 △16 | 設備投資 △19 | 借入金 △68 |
| その他 △1 | その他 △1 | |
| | | 配当金支払 △9 |
| 営業CF 43 | 投資CF △20 | 財務CF 23 |

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

2008年3月期 通期の見通し(連結)



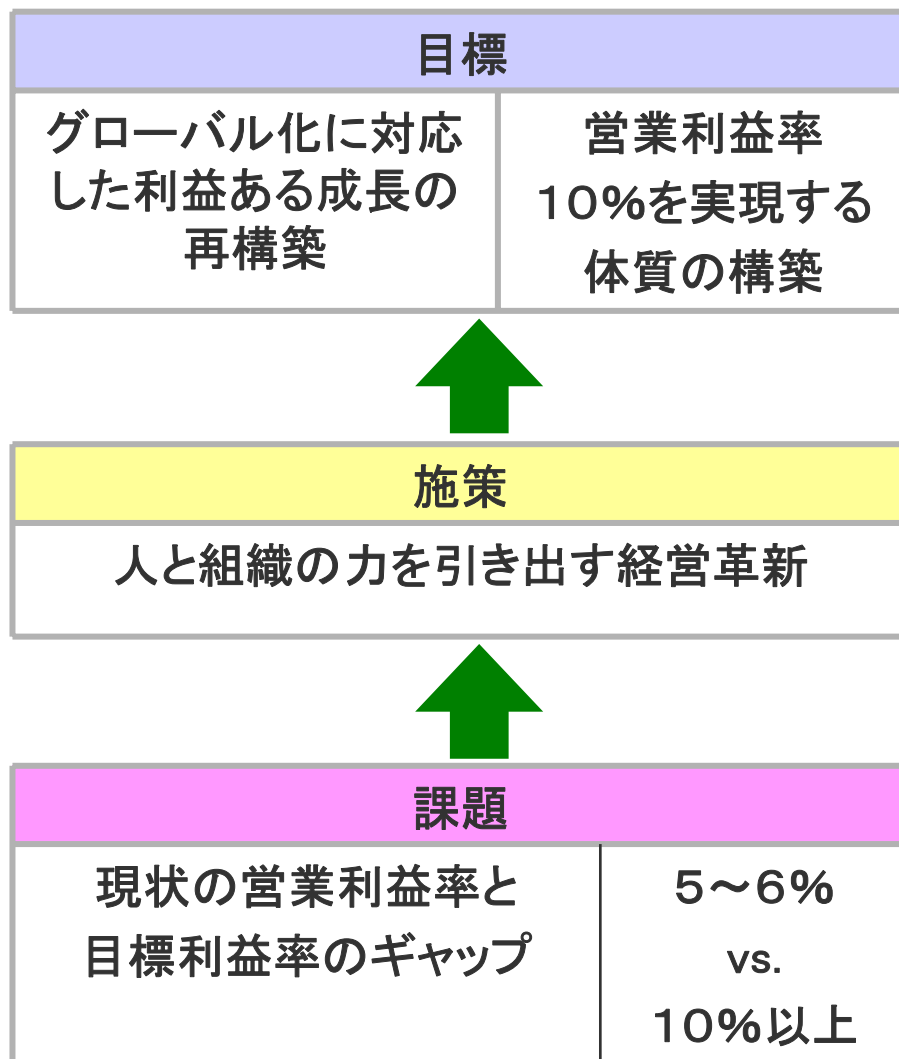
単位:億円

| | | 2007/3期 | 2008/3期 | | |
|-------|------|---------|---------|------------|---------------|
| | | 通期実績 | 通期予想 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率(%) |
| 売上高 | | 994 | 1,035 | 41 | 4% |
| 営業利益 | | 64 | 55 | △ 9 | △ 13% |
| 経常利益 | | 32 | 0 | △ 32 | - |
| 当期純利益 | | 14 | △ 20 | △ 34 | - |
| 計測器 | 売上高 | 729 | 760 | 31 | 4% |
| | 営業利益 | 47 | 41 | △ 6 | △ 13% |
| 情報通信 | 売上高 | 60 | 65 | 5 | 8% |
| | 営業利益 | 1 | 1 | 0 | △ 31% |
| 産業機械 | 売上高 | 123 | 135 | 12 | 10% |
| | 営業利益 | 6 | 8 | 2 | 32% |
| その他 | 売上高 | 83 | 75 | △ 8 | △ 9% |
| | 営業利益 | 9 | 5 | △ 4 | △ 44% |

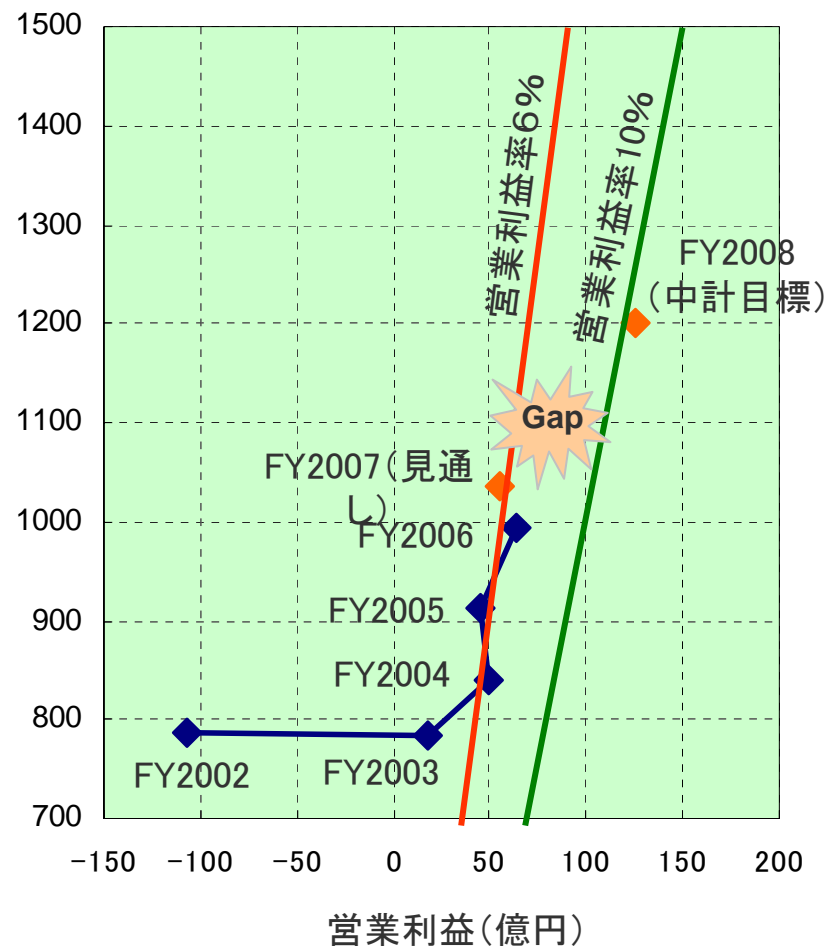
配当: 1株当たり年間7円(うち中間配当3.5円)を予定

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

経営革新施策の狙い



売上高(億円)



経営革新施策の概要

1

競争力強化

- マーケティングの強化による顧客価値創造型事業プロセスの構築
- 商品企画センターの設立

顧客価値に
フォーカスした
事業プロセス

事業プロセスと
組織の単純化と
機能集約

- 経営スピード・
利益率の改善
人的資源の最適配分
- 2大事業部を本社機能に集約
 - 重複機能の排除
 - SCM革新によるコストダウン

グローバル化に
対応した
利益ある成長の
再構築

投下資本

- リターンの向上
- 開発リターン管理指標の大幅改善
 - 分散した開発リソースの結集で効率アップ

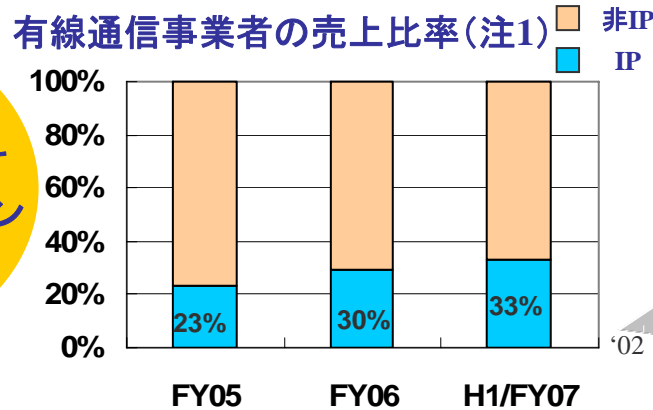
投下資本
管理指標による
経営管理徹底

低収益製品群の
整理・非効率
部門の改革

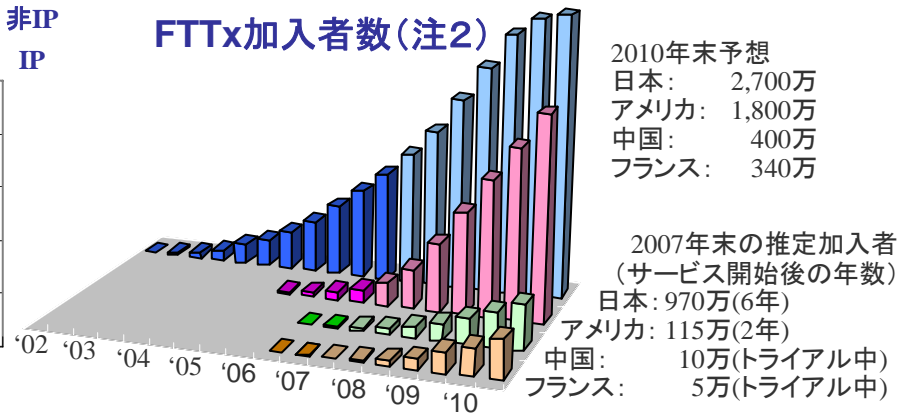
- 利益率・
回転率改善
- 低収益製品群の整理
 - 精密計測事業の分社化

注力する事業領域

堅調な
次世代通信向け
計測ソリューション
への需要



FTTx加入者数(注2)



ブロードバンド
IPネットワーク計測



サービス・アシュアランス



次世代携帯端末計測



汎用計測



差別化された最先端技術力とグローバルセールスネットワーク

対象市場の2008年度予想成長率2~3%

2008年度に向けた経営革新目標

1

